

交信かく乱リンゴ園における改良型ルアーを利用した モモシクイガの誘殺

福島県果樹試験場病理昆虫部

平成17年度福島県果樹試験場試験研究成績書

1 部門名 果樹－リンゴ－病害虫防除

分類コード 04－01－23000000

2 担当者 相原隆志・荒川昭弘・阿部憲義

3 要 旨

（1）交信かく乱剤処理園でも発生消長をとらえることができるモモシクイガの誘引ルアーを実用化するため、従来の予察用ルアー成分を20倍量使用した高濃度ルアー（高濃度）、性フェロモンの微量成分を使用したルアー（微量）、セイヨウナシの成熟時に発生する香気成分を使用したルアー（香気）を用いてその有効性を検討した。

5月20日～9月5日にかけてリンゴ放任園にトラップを設置し、7日ごとに誘殺数を調査した。園内に交信かく乱剤を処理した区域を設け、各ルアーを単独および三種類同時に使用（三種混合）し、従来の予察用ルアー（通常）と比較した。また、交信かく乱剤を処理しない区域にも通常を設置し、誘殺消長を比較した。

（2）試験期間を通じて最も誘殺数が多かったのは「三種混合」であり、かく乱剤無処理下の通常よりも多かった。次いで「高濃度」で多く、微量成分も一定の誘殺が見られた。「香気成分」は若干の誘殺が見られた。また、「三種混合」および「高濃度」における誘殺消長は、交信かく乱剤無処理の通常と類似していた。

（3）「三種混合」および「高濃度」では、交信かく乱処理園においても多数の誘殺が認められた。また、三種類のルアーを同時に使用することによって、より強力な誘引力が得られた。

「三種混合」あるいは「高濃度」ルアーによる発生消長の把握は、交信かく乱剤を利用した殺虫剤削減防除体系において、補完防除剤の要不要やその使用時期を判断するうえで有効な指標になると期待される。

4 その他の資料など

なし